

# イワウベツ川治山ダムの改良について

林野庁北海道森林管理局  
網走南部森林管理署

# 1. イワウベツ川位置図



# 令和5年度施工 (7号ダム)

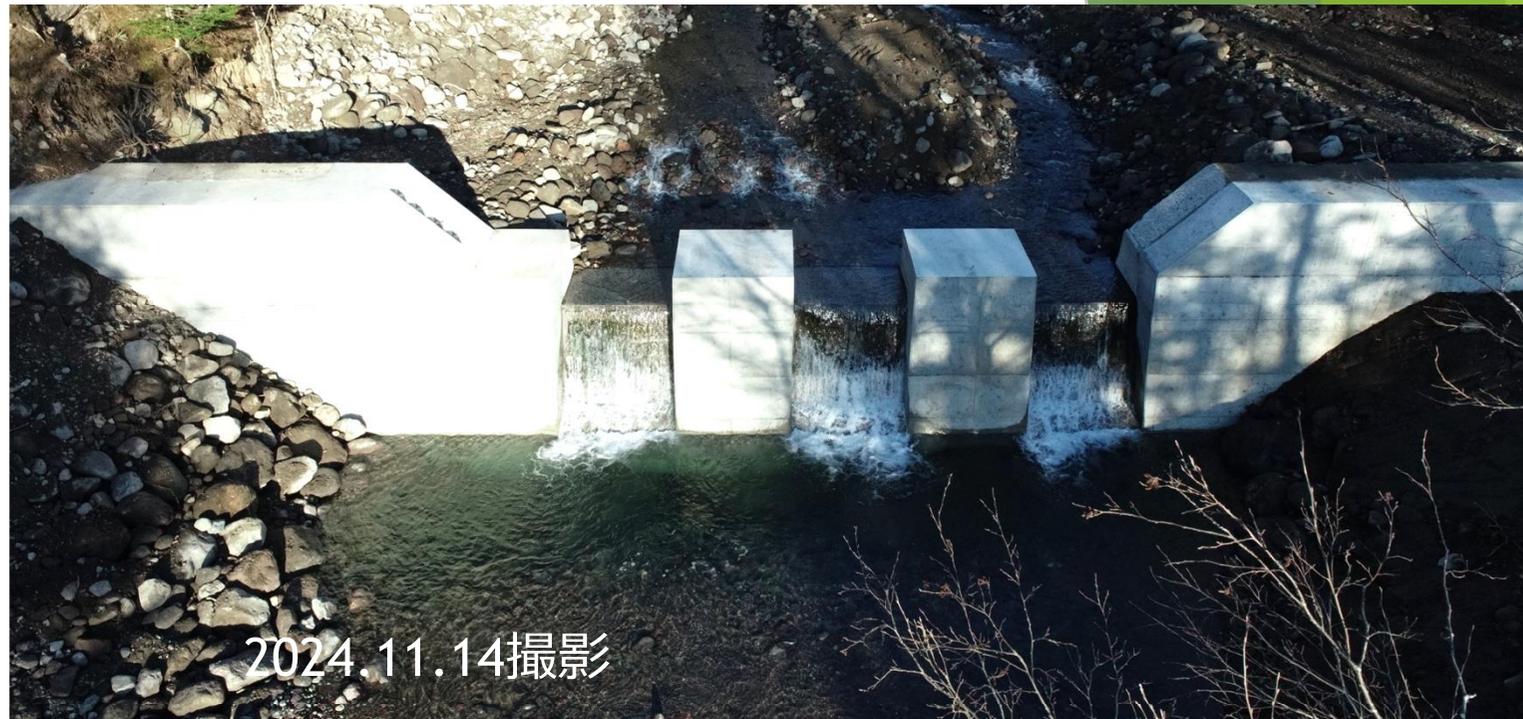
放水路部分を1.6m切り下げた。





# 令和7年度施工 (3号ダム)

- 2.3m幅で3本のスリットを施工（2回目）。
- 切り下げは1mずつ3回（R6～R8）に分けて実施。





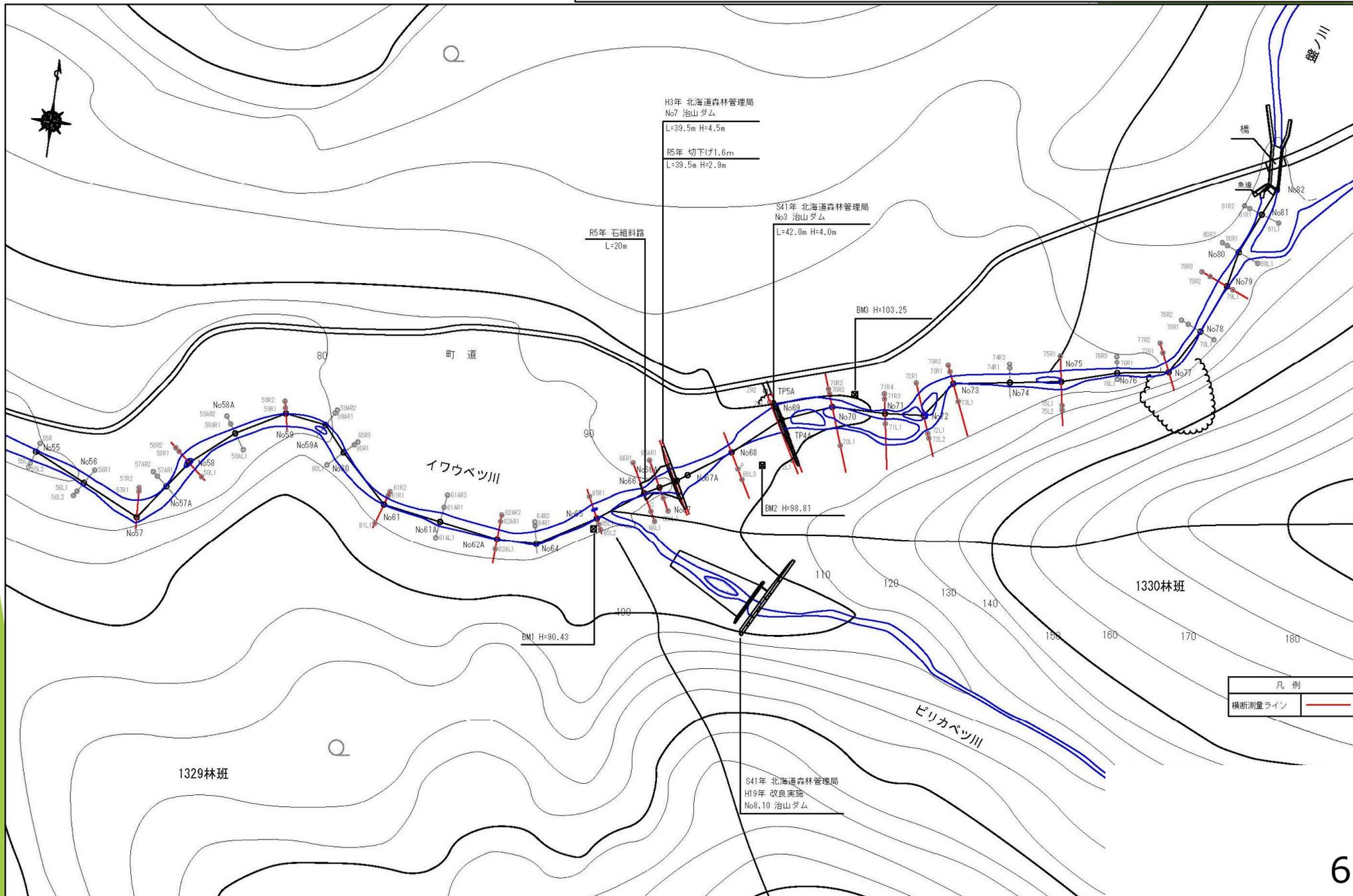
2024.11.14撮影



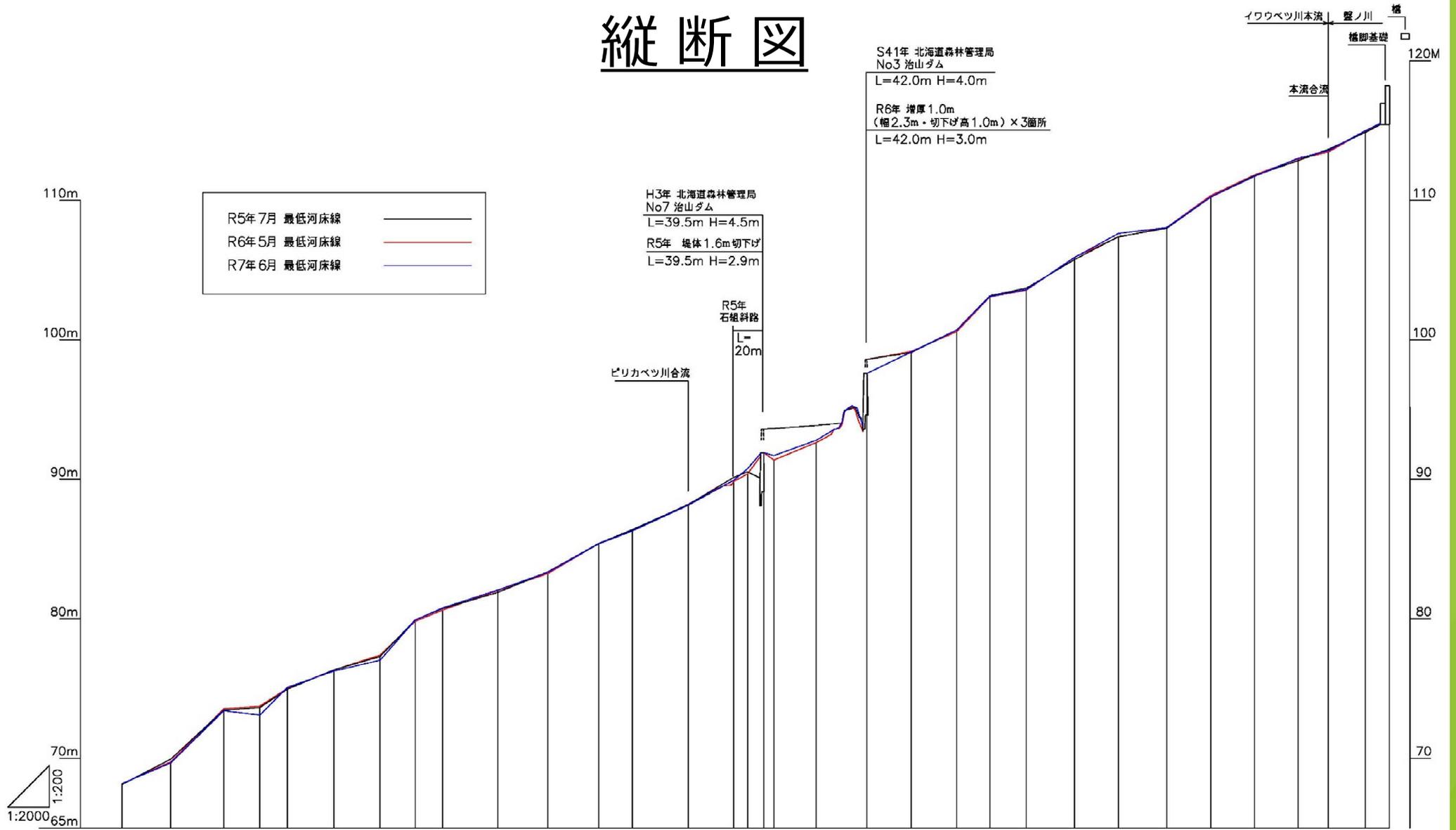
2025.11.20撮影

# 河川測量について

・令和5年度工事施工前に実施した測量を継続し、河床状況変化を観察する。  
 (No55~No82の縦断測量と20箇所の横断測量を実施)



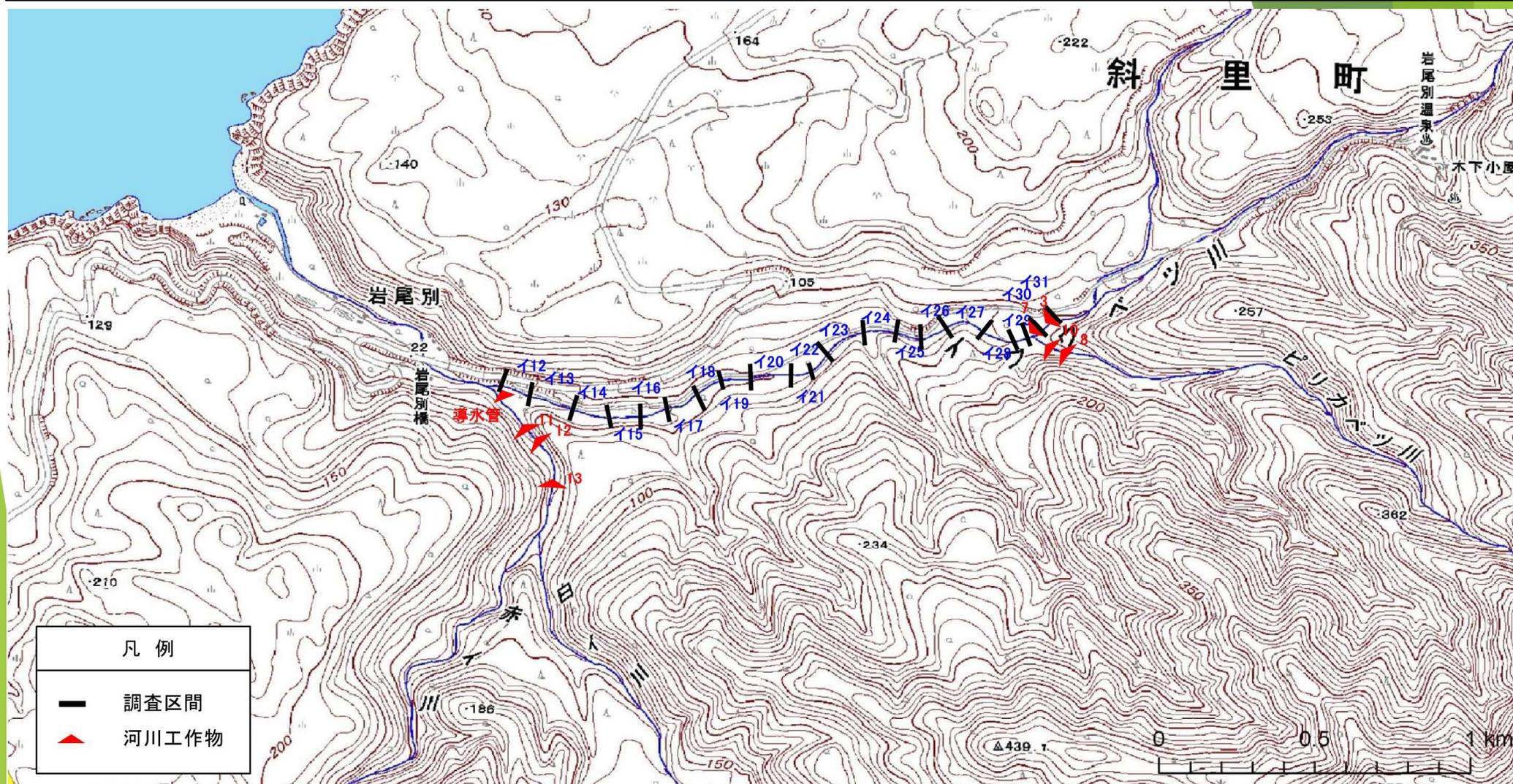
# 縦断図



測 点 No	水平距離	追加水平距離	垂直距離	(A)R5年7月地盤高	(B)R6年5月地盤高	(C)R7年6月地盤高	(C)-(A)差化量	溪床勾配
	0.0	0.0	0.0	88.19	88.13	88.20	+0.07	
	35.0	35.0	1.81	89.75	89.84	89.67	-0.27	7.1
	73.4	73.4	3.52	91.56	91.48	91.42	-0.04	-1.2
	89.4	89.4	0.18	93.74	93.64	93.71	+0.07	
	119.3	119.3	1.32	95.02	94.96	95.09	+0.13	
	152.8	152.8	1.38	96.34	96.34	96.26	-0.08	4.5
	186.2	186.2	0.96	97.40	97.30	97.04	-0.28	11.3
	211.6	211.6	2.63	98.83	98.83	98.82	-0.01	
	231.4	231.4	0.82	99.84	99.75	99.79	+0.04	
	271.2	271.2	1.16	101.07	101.00	101.07	+0.07	3.6
	307.3	307.3	1.47	102.25	102.37	102.35	-0.02	
	344.0	344.0	2.04	103.40	103.41	103.38	-0.02	4.7
	388.3	388.3	0.98	104.32	104.40	104.31	-0.09	
	408.6	408.6	1.78	105.22	105.19	105.15	-0.04	5.4
	441.5	441.5	1.94	106.25	106.13	106.25	+0.22	
	461.5	461.5	0.41	107.09	107.04	107.09	+0.05	9.9
	463.1	463.1	3.52	108.01	108.01	108.01	0.00	
	470.5	470.5	0.03	108.31	108.34	108.31	-0.03	2.3
	500.8	500.8	0.22	109.83	109.88	109.79	-0.07	3.1
	537.4	537.4	0.37	111.44	111.49	111.46	-0.03	
	569.5	569.5	0.49	112.99	112.99	112.91	-0.08	4.8
	602.3	602.3	1.82	114.71	114.71	114.71	0.00	10.1
	626.2	626.2	2.46	116.12	116.16	116.12	-0.04	
	652.5	652.5	0.54	117.66	117.70	117.66	-0.04	
	687.4	687.4	2.06	119.91	119.93	119.91	-0.02	3.9
	719.0	719.0	1.64	121.83	121.87	121.83	-0.04	
	753.9	753.9	0.60	123.06	123.06	123.06	0.00	4.7
	785.7	785.7	2.24	124.24	124.24	124.24	0.00	
	817.2	817.2	1.53	125.82	125.82	125.82	0.00	
	848.8	848.8	1.08	127.02	127.02	127.02	0.00	
	870.5	870.5	0.81	128.56	128.56	128.56	0.00	
	887.2	887.2	1.21	129.99	129.99	129.99	0.00	
	914.7	914.7	0.56	131.54	131.54	131.54	0.00	

# 遡上調査・産卵床調査について

- 赤い川合流点から3号ダムまでの区間イ12～イ31（約2,000m）において、100mごとに区間を設け、サケ科魚類の親魚・産卵床数をカウントする。
- 調査期間を9月に予定していたが羅臼岳登山道で発生したヒグマ人身事故により一時見合わせとなり、調査は10月8日に実施。



# 遡上調査・産卵床調査について

調査結果は表1のとおりで、10月8日は区間イ12、イ13（イワウベツ川の赤イ川合流点から～200m上流）で、サケ親魚9尾、サケ産卵床3個を確認した。

また、知床財団調査からの聞き取り情報では、R7年はイワウベツ川でサクラマス親魚58尾を確認（改良中の3号ダム直下にて最も多く確認）された。

イワウベツ川	区間名	サクラマス			カラフトマス			サケ		
		調査日			調査日			調査日		
		R7/10/8			R7/10/8			R7/10/8		
		親魚	産卵床	死魚	親魚	産卵床	死魚	親魚	産卵床	死魚
No3ダム	イ31									
No7ダム (R5改良)	イ30									
ヒリカハツ川合流点	イ29									
	イ28									
	イ27									
	イ26									
	イ25									
	イ24									
	イ23									
	イ22									
	イ21									
	イ20									
	イ19									
	イ18									
	イ17									
	イ16									
	イ15									
	イ14									
	イ13							7	2	
赤イ川合流点	イ12						2	1		
計		0	0	0	0	0	0	9	3	0

# 令和7年10月 イワウベツ川サケ科魚類の親魚・産卵床調査 状況写真



イワウベツ川本流の区間イ12のサケ産卵床  
(R7/10/8)



イワウベツ川本流の区間イ13のサケ産卵床  
(R7/10/8)



イワウベツ7号改良ダム下流の溪床  
(R7/10/8)

# 河床材料粒径分布調査

## 1. 調査の目的

イワウベツ川本流における7号ダム（R5年改良済）、3号ダム（R6年から改良実施中）の改良に伴い上下流の河床材料（石礫）が変化すると想定される。このため改良ダムの上下流で河床材料粒径分布調査を実施し、①経年的な河床材料粒径分布変化モニタリング、②サケ科魚類産卵に適した礫径レンジの増減のモニタリング・評価、を行うことを目的とする。

## 2. 調査箇所

図1の○が調査地点。  
改良ダム上下流の河床材料粒径を調査するため、以下の4つの調査地点を設定した。

- ① 7号ダム下流
- ② 7号ダム上流
- ③ 3号ダム下流
- ④ 3号ダム上流

## 3. 調査方法

巨礫を有する河道における「線格子法とふるい分け法を併用した河床材料粒径分布把握手法」により粒径加積曲線を作成した。この手法は、粒度分布が広い河床材料を1つの粒径加積曲線で表現する手法（開発中）である。

調査はR7年10月上旬に実施した。

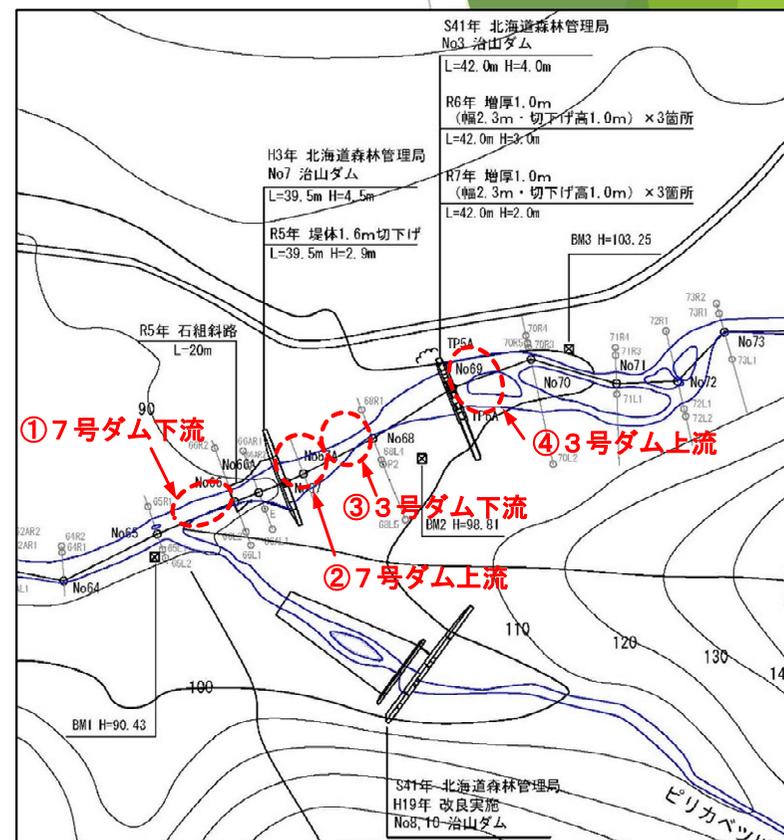
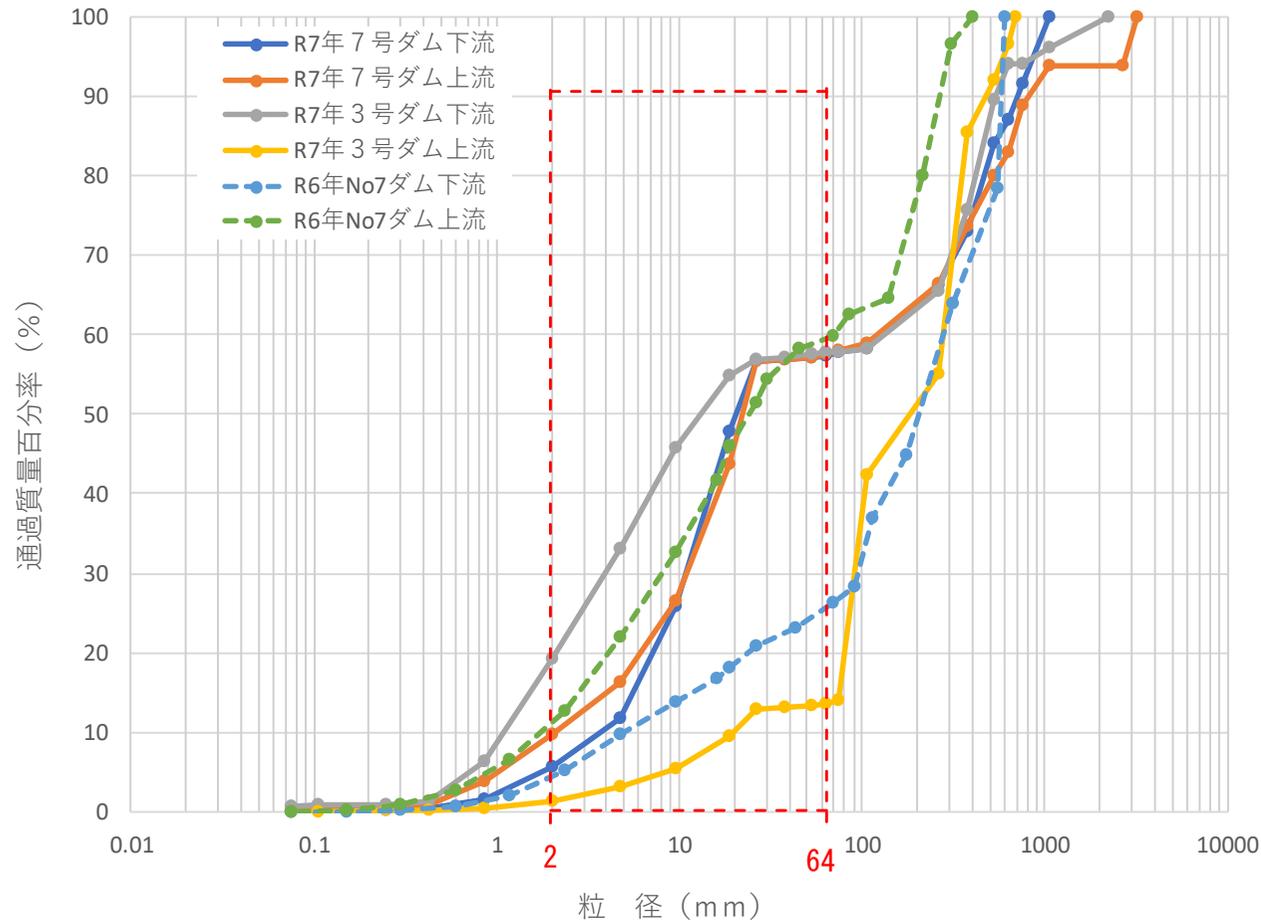


図1 調査地点

## 4 調査結果

図2  
粒径加積曲線→



R6年データは北見工業大学調査データから引用（調査実施はR6年夏季）

- ① R7年調査データ同士を比較すると、小さい粒径が多い順に3号ダム下流、7号ダム上流、7号ダム下流、3号ダム上流となった。3号ダムはR6年秋から切下げを開始しており、細かな土砂が下流に移動しているものと推測できる。
- ② R6年調査データを見ると、7号ダム上流の方が7号ダム下流よりも小さい粒径が多いが、R7年調査データでは、7号ダム下流は小さい粒径がより多くなっている。7号ダム下流は石組斜路直下の区域で、石組斜路より勾配が緩くなるため、礫径の小さな土砂が溜まりやすい区域と考えられ、3号ダム切下げにより下流に土砂が移動した影響が現れたものと推測できる。
- ③ オッカバケ川で実施している産卵環境調査では、サクラマス産卵適地となる石礫レンジを2mm～64mmとしている。粒径加積曲線に示すと 2 の範囲となる。
- ④ 表1に示す粒径2mm～64mmの質量百分率の数値が高まるほど、サクラマス産卵適地の割合が増えるものと考えられる。7号ダム下流では、R6年よりR7年が数値が増えている。

表1  
粒径2mm～64mmの質量百分率

箇所	R6年	R7年
7号ダム下流	21%	52%
7号ダム上流	49%	48%
3号ダム下流		38%
3号ダム上流		12%

# 漁業関係者との打合せについて

## 岩尾別ふ化場

- ・令和5年度に施工したイワウベツ川7号ダム改良工事、令和7年度に施工した3号ダム（スリット2回目）改良工事で、ふ化場に影響はなかった。
- ・サケ及びカラフトマスで予定採卵数を確保できれば、仕切りは取り外す予定。
- ・イワウベツ川にクマの出没が少なかったのか、カメラマン等が道路周辺に駐車することも減少し、ふ化場周辺で大きな被害はなかった。

## 北見管内さけ・ます増殖事業協会

- ・サケについては令和7年度の予定数量を捕獲できた。
- ・カラフトマスは過去多い時で2千万尾いたが、近年は極端に少ない。
- ・ルシャ川のふ化場を平成24年に廃止したときに、岩尾別ふ化場は残すことを漁師と約束した経過がある。
- ・サケを遡上させることによって、イワウベツ川にクマがつくことによる諸問題（クマ渋滞）を解決できるなら遡上させることに問題はない。

# 治山ダム改良スケジュール（案）について

ダムNo	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
7号ダム	切下げ、石組斜路 改良済み				
3号ダム		堤体増厚 スリット（1回目） 下流側保護工	スリット（2回目）	スリット（3回目）	

## 【R8計画（案）】

（工事関係）

- ・令和8年度はスリット部分の3回目の切り下げ（1m）を実施する。
- ・施工時期については8月中旬から12月末までとする。

（測量及びモニタリング調査）

- ・縦横断測量等を継続的に実施し、河床の状況変化を観察する。
- ・サケ科魚類の遡上調査、産卵床調査を実施する。（9月上旬予定。）

※なお、地元関係機関等との調整結果及び年度毎の予算事情によりスケジュールの変更もありえる。